



国民の森林・国有林

「再造林・保育作業の機械化を目指して」 再造林・保育施行機械化実装支援事業研修会

【大分西部森林管理署】

令和3年9月2日、大分県玖珠郡玖珠町の森平家山国有林内で久大林産(株)が造林者となっている分収造林地において、油圧式パワーショベルに搭載したアタッチメント式草刈り機械の研修会が実施されました。

この研修会は、大分県で再造林・保育作業の機械化を目指す意欲的な林業経営体を支援し森林施業の機械化に取り組む中で実現したもので、久大林産(株)が事業実施の承認を受け大分西部流域林業活性化センターによる「再造林・保育施行機械化実装支援事業研修会」として開催され、3名の当署職員を含む約30名の関係者が参加しました。



ヘッジカッターを搭載したパワーショベル



パワーショベルによる下刈りの様子

直径55cmであるため細部まで刈ることができ、苗木を誤伐するおそれ小さいようでした。オペレーターからの意見としては刈り幅1.5mのカッタータイプが特に旋回や刈刃

当該機は、刈りカスが飛ばず、安全に刈り込み可能なカットタイプのカッター幅1.5mと1.8mの2種類と「草、木、竹」一台で切断できる円盤状の刃が回転するタイプの3種類が用意されており、それぞれ「HEDGE CUTTER HCL50」「HEDGE CUTTER HCL180」「SAW HEAD HS55」という名称で商品化され、林業や造園の現場等で使用されています。

現地での重機による機械下刈りの実演では、カッタータイプのアタッチメントは水平と垂直の間に任意の角度で切断でき、360度の旋回させることもできるため刈り幅が広く作業の省力化が期待できるようでしたが、目印としているツリーシェルターがなければ誤伐するおそれがあるようでした。メーカー担当者からは、個々に刃が交換可能な為、メンテナンス性も容易に行うことができるとの説明があり、円盤状の刃が回転するタイプでは、

の角度調整できるとため下刈り作業がしやすいとのことでしたが、重機の操作が複雑なため高度な技術が必要とのことでした。

普及に向けた課題は、機械コストを考慮したコスト比較と植栽前に必要な事前作業の実施（切株の切り直し等）、

重機の車体幅を考慮した植栽配置検討、誤伐防止のため目印としたツリーシールドの活用、機械下刈りマニュアルの作成・普及等が挙がっており事業実施に向け準備を進めている段階にあります。今後とも引き続き、林業分野への新技術導入を加速させ循環型林業の確立を図ることにより、人力（刈り払い機）による過酷な炎天下での作業の省力化・労力の軽減化、高齢化が進み造林作業員の減少に対応するために実現化を期待するところです。

「緑の雇用」新規就業者 育成を支援

フォレストワーカー研修を実施

【長崎森林管理署】

「緑の雇用」事業は、未経験者の方でも林業に就き、必要な技術を学んでもらうため、林業経営体採用された人に対し、講習や研修を行うことでキャリアアップを支援するという制度です。

長崎森林管理署では、長崎県森林組合連合会の依頼を受け、新しく林業の仕事を始めたい方を対象に講義や現場実習を通じて、基本姿勢や基礎を習得し、一人前の現場技能者になる能力が身につくよう指導を行い、地域林業の担い手育成のお手伝いを行っています。

シラバスに基づき研修年次に応じて研修の内容をステップアップさせ、さまざまな技能を身

につけられるよう全国統一の体系的な研修プログラムが用意されており、当署では森林整備部門を担当します。

9月には1・2年生19名に対し、高木敏署長が下刈・除伐等の内容と目的、刈払機の構造や機能、作業に潜む危険要因、災害事例等について講義するとともに、現場において下刈や除伐の実習を行いました。研修生からは炎天下での下刈作業の大変さとともに、リスクアセスメントやミーティングなど各事業体で普段見落としがちな「気づき」の重要

性を再認識したとの意見がありました。

今後は、12月にかけて一口竜也森林技術指導官、渡邊昭伍総括森林整備官等が講師となり、地拵・植付作業や安全な



講義される高木署長



刈り払い機の点検の様子



下刈りの指導の様子

伐採方法、掛かり木処理等を含めた間伐作業などについて11日間の集合研修を実施する予定です。

また、この研修には当署の若手職員も積極的に聴講生として参加し、講義と併せ新規就業者との意見交換を行うなど「現場の声を聞く」取組を徹底するなど民有林関係者等とのコミュニケーションにより、人材の育成に努めて参ります。

なお、現場実習、刈払機、チェーンソー等の取扱については（株）長崎林業に協力いただいき安全に実施していきます。

学生に向けて、国有 林での取組を説明

【宮崎森林管理署】

8月26日、綾町ユネスコエコパークセンターと南九州大学生各人をオンラインで結んで実施された南九州大学の講義「環境問題演習2021」において、綾町役場の職員、綾町猟友会会長らとともに、綾森林事務所から原口尚也首

席森林官が外部講師を務めました。本講義は、教員を指す学生を対象に、「環境教育論」の実践編として開講されているものです。

今年「ニホンカモシカの持続的保全」のテーマのもと、主に綾町を対象に行政による施策や（カモシカの生息に影響を与えているとされる）ニホンシカ、カモシカの生態等に関して、外部講師それぞれ立場から講義が行われました。

原口尚也首席森林官からは、綾森林事務所の概要や国有林における有害鳥獣捕獲事業のほか、森林総合研究所（九州支所）でシカ影響のデータ解析を実施している「針葉樹人工林におけるシカ痕跡の広域調査」について説明されました。学生からの「くくりわなの見回りは大変な労力と時間がかかると思いますが、どのようにして巡回していますか」との質問に、「巡回

のしやすい林道付近の獣道を探し、そこにくくりわなを設置するようにしています」と答える場面もありました。

今回の講義全体をとおして、綾町内での町、猟友会などの取組みやニホンシカ等による影響について、現状把握、情報共有をすることができました。綾の照葉樹林プロジェクトの一員として、このような地域との情報共有の場は貴重な機会でもあります。今後、今回のような要請があれば積極的に協力していきたい。



オンラインによる講義の様子

くとともに、引き続き、綾町の活動に寄与していきたいと考えています。

「やれることを、その思いが表彰に」

「令和2年7月豪雨」により、熊本県の球磨川水系に位置する人吉市や球磨村などを含む広範囲で河川の氾濫、決壊が発生しました。約1,500戸の建物が全壊し、死者・行方不明者が60名を超え、さ



挨拶される小島局長

らに、豪雨に伴う山腹崩壊や浸水被害により、国道や県道及び林道が不通となり山間部に多数の孤立集落が発生しました。

熊本県南部の国有林を管理する熊本南部森林管理署では、職員自身が被災する中、国有林野の災害対応を行いつつ、市町村等と連携し孤立集落への迂回路の確保にも努めました。

この取組が地域の安全・安心に貢献したと評価され、このほど林野庁長官賞を受賞することになり、9月27日に開催された署長等会議において、小島孝文局長から、熊本南部森林管理署を代表し赤星良治署長へ表彰状が授与されました。

（担当＝総務課）



表彰状を手にされた赤星署長

保護・増殖協定に基づき機材の設置等を実施

【熊本森林管理署】

当署では、昨年6月に山都町との間で、国内希少野生動物種であるシシランの増殖のためのフィールドの提供、シシランの増殖のための挿し穂の提供、保護・増殖に係る情報共有を目的として、「ゴイシツバメシジミの保護・増殖に係る連携と協力に関する協定」を締結しました。

協定締結を受けて昨年度から本協定に基づき、山都町においてシシランの生息環境の基礎データ収集を目的として、当署で設置しているシシラン育成小屋内や林地内に日照度と温湿度のデータロガーの機材を設置しており、本年度も8月に追加の機材を設置してデータの収集が行われています。

また、本年4月に当署から山都町へシシランの挿し穂を提供しており、シシラン



調査機材の設置の様子



調査機材（データロガー）

の株増殖が行われています。
当署としては、引き続き山都町と情報共有等を行い、より一層の連携・協力を図りながらゴイシツバメシジミの保護・増殖に取り組む考えです。

【宮崎森林管理署】
8月24日、綾町役場において綾町、同町有害鳥獣対策協議会及び宮崎森林管理署の三者による、シカ被害対策協定書の締結・調印式を行いました。

当署においては4箇所目の協定締結となり、今後、3者が連携して「くくりわな」の無償貸与によるシカ捕獲、捕獲に関する情報交換、捕獲に際しての安全確保などの取組を行うこととしています。



協定締結の様子

調印式では、初田町長から綾町には、日本最大級の照葉樹林が広がりユネスコエコパークに町全域が登録されており、ユネスコエコパークを柱とした自然との共生が課題であり、農業被害及び生態系被害の防止を推進することで、森の恵みを生かしていきたいとの話がありました。自然と共生する地域づくりを進める綾町において、今後、シカ捕獲によって農業被害及び生態系被害を防止し、里山環境の健全化と地元農山村の活性化に資することが期待されます。

綾町において新たな「シカ被害対策協定」を締結

調印式では、初田町長から綾町には、日本最大級の照葉樹林が広がりユネスコエコパークに町全域が登録されており、ユネスコエコパークを柱とした自然との共生が課題であり、農業被害及び生態系被害の防止を推進することで、森の恵みを生かしていきたいとの話がありました。自然と共生する地域づくりを進める綾町において、今後、シカ捕獲によって農業被害及び生態系被害を防止し、里山環境の健全化と地元農山村の活性化に資することが期待されます。



訓練の様子



情報を伝える田上総括治山技術官

【大分西部・大分森林管理署】
令和3年8月31日、大分県九重町の長者原登山口において、大分県・竹田市・由布市・九重町主催による「令和3年度九重山火山防災訓練」が実施され、関係機関から約50名が参加し、大分西部森林管理署から田上誠総括治山技術官、白石裕次総括事務管理官、西田卓矢治山技術官補、大分森林管理署から竹原敬一郎総括治山技術官が参加しました。

令和3年度九重山火山防災訓練に参加

当日は、九重町の硫黄山で小規模の水蒸気噴火が発生し、火口周辺の噴石が飛散した。福岡管区気象台が噴火警戒レベル2（火口周辺規制）を発表したとの想定で、警戒レベルの引き上げに伴い、火口周辺への立ち入り規制、登山者の安否確認等、県・市町・関係機関が連携した初動訓練が行われました。
訓練では、長者原登山口に現地指揮所が設置され、テレビモニターを通じて大分県防災センターとのオンラインによる情報伝達・収集訓練や現地対策訓練、安否確認訓練が行われ、現地対策訓練においては、田上誠総括治山技術官が登山者の救助活動のため、車

両通行可能な区域を地図に示し情報共有を行いました。

今回の訓練は、九重山火山避難計画に基づく初めての訓練でもあり、参加者全員が噴火災害時の初動対応や情報共有を確認し、緊張感を持った火山防災訓練となりました。

金峰山ヒノキ等の委託販売を実施

【熊本森林管理署】

当署では、9月22日に熊本市内の熊本木材（株）で開催された第1974回の市に、地元からの伐除要望に基づき危険木処理した空洞等のある高齢級の金峰山のヒノキとスギを約35立方メートル、また9月27日には肥後木材（株）で開催された第2017回の市に、森林整備事業で生産した中から高品質のスギ一般材約470立方メートルをそれぞれ出材しました。

両方の市とも、多くの買手が参加する中で入札が行われ、競り子の威勢の良い掛け声とともに次々と競り落とさ

れていきました。現在、国有林の素材の販売方法がシステム販売中心になっており、市売りの入札状況を初めて見学した若手職員もいました。

入札の結果は、熊本木材の市では金峰山ヒノキに腐れなどがあつたものの希少な材と言ったこともあり、最高入札単価は長級7m、径級54cmが立方メートルあたり16万1千円で取引されるとともに、肥後木材の市では高品質のスギ一般材が、最高入札単価は長級3m、径級24〜28cmが立方メートルあたり2万6千円で取引されました。当署としては、資源の有効活用及び収入確保の観点から引き続き積極的に高品質材や



熊本木材での市売りの様子

高付加価値な樹種の被害木等の委託販売に取り組んでいく考えです。



肥後木材での市売りの様子

OJT（パソコン操作と森林教室）を実施

【屋久島森林管理署】

当署では、令和3年9月に「効率的に業務を行うこと」と「効果的な森林教室を実施すること」を目的としたOJTを開催しました。森林インストラクターの資格を有している都賢太郎地域技術官が講師となり、午前中は参考となるインターネットのサイトや



パソコン操作の説明の様子

効率的なパソコン操作の紹介があり、午後からはネイチャーゲームを活用した効果的な森林教室を体験しました。

まず、参考資料として、農林水産省ポータル内にある「まふの泉」や林野庁のホームページ内にある「国有林野の管理経営に関する基本計画の実施状況」等の紹介があり、森林・林業全体から見た国有林野事業の重要性や各森林管理の優良事例等について説明がありました。そして、効率的なパソコン操作では、Outlookのメールアドレスをパソコンに保存する方法やWordやExcelの使い方などの紹介もあり、効率的に業



ネイチャーゲーム体験の様子

午後からは模擬森林教室ととして、森林教室を行う際に注意することや効果的な説明手順について説明があつた後、「色いくつ」や「カモフラージュ」等のネイチャーゲームを体験しました。ネイチャーゲームは遊びながら、五感を刺激したり、自然のおもしろさに気づくことができるように作られているため、森林教室の中で取り入れることにより、効果的な活動にすることができま

当署としては、今回のOJTで学んだ効率的な業務実施と効果的な森林教室を実施し

つつ、今後もOJTを通じたスキルアップを実施します。さらに、OJTを発展させたOJL（自ら学ぶ）という視点も加えて、今後も各自のスキルアップに取り組むこととしています。

**「広葉樹展示林」を
散策してみませんか**
森林技術・支援センター

暖温帯に分布する有用広葉樹の人工林施業体系の確立を目的に、平成8年度、宮崎森林管理署 高岡森林事務所部内（去川国有林263は林小班）にイチイガシ他46種（山引き苗、普通苗、ポット苗）を植栽し試験地として設定しました。

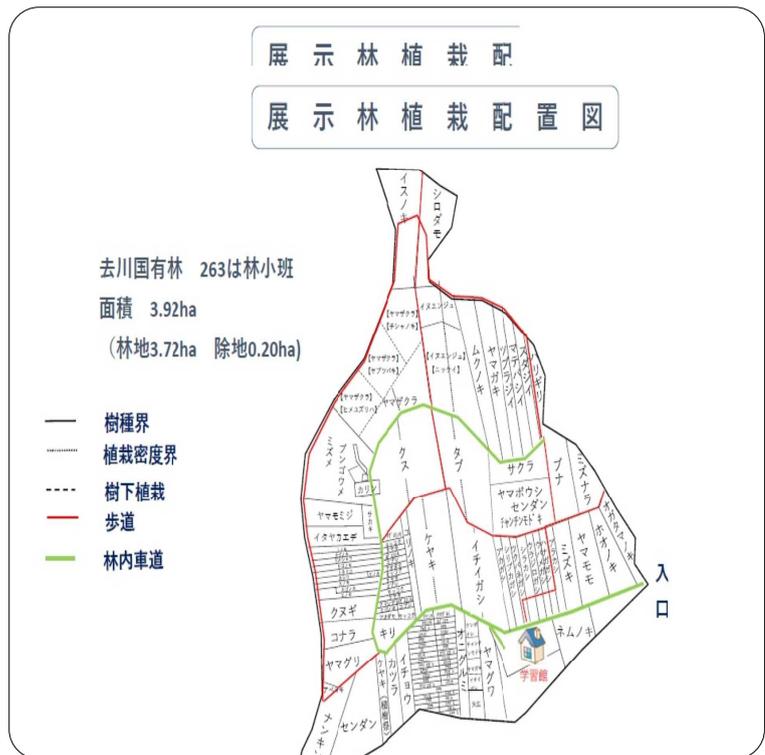
その後、補植、改植、下刈、つる切り、除伐、本数調整伐、施肥及び獣害防除等を繰り返し、一部、病虫害や獣害の被害が見受けられましたが、20数年経過した今では全83種の成林した広葉樹林となっています。

森林技術・支援センターの試験完了後、森林総合研修所

九州支所において試験研究を行い、平成27年度に試験研究が完了となりましたが、令和2年度、早世樹及び有用広葉樹の普及活動を図ることを目的に「広葉樹展示林」として設定されました。

また、令和3年度は成林した樹木の毎木調査及び適正な間伐を実施して、今後の成長を見守ることとしています。

森林技術・支援センターのホームページにこれまでの研究成果、樹木の特性や特徴等を整理している「広葉樹展示林図鑑」を掲載していますのでご覧いただき、併せて成長した広葉樹（人工林）の森林を散策してみませんか。
（紹介Ⅱ森林技術・支援センター）



人のうごき

☆9月30日付退職

谷口良治【企画調整課】

☆10月1日付異動

林野庁森林整備部研究指導課

乗富真理【保全課】

經理課支出係長

内海康雄【經理課】

經理課主計係長

佐藤讓治【經理課】

計画課計画調整官

松下俊二【大隅署】

治山課災害対策指導係長

三浦健司【治山課】

熊本署森林情報管理官

羽野誠一郎【熊本署】

西都児湯署森林情報管理官

塩谷幸子【西都児湯署】

北薩署主任事務管理官

(総務・管理担当)

猪島憲治【北薩署】

大隅署森林情報管理官

稲員友樹【大隅署】

大隅署総括事務管理官

河内勝秀【經理課】



山川 陽子さん

数年前に、漸く子供達の手が離れ、今後は、自分の好きなことをやりたいと思い、すぐに地元の方の森の保全活動のボランティアになりました。若い頃、ジムニーで毎週末、野山を駆け回っていたので、ボランティアとしてまた、山や森に行ける喜びは大きいものでした。私の夫は、長期の単身赴任生活で、仕事と子育ての両方を私1人が担い、自分の時間も無かったので、やっと森に行ける様になった事に幸せを感じました。

森のボランティア活動の大半は、日光が当たり、森が呼吸しやすくする為に、下草を刈り、除伐作業をします。

除伐は『受け口』と『追い口』を鋸で切り込みを入れ、直径で約20・30センチはある樹木を、鋸で何人かで交代しながら引いていきますが、ノコ先と手前の刃が水平になる様に確認しながら切っていく事はとても難しいけど、普通の主婦が滅多に出来ない経験ができ、毎回心が躍ります。その反面、除伐された木が可哀想で勿体無く思え、心苦しい気持ちにもなりました。それからは除伐された木を毎回、少しだけ貰って帰り、バターナイフを作っては、ボランティア仲間にもプレゼントしています。『この木の事を忘れないでね』という気持ちと、この木の第二の人生(木生?)として形を残したい思いで一生懸命に削っていたら、最初

森のボランティア活動を通じて

は歪だったけど、だんだん上手く削れる様になりました。

また、ボランティア活動を通じて、仲間や色々な方から森や樹木や植物の話、そして森に集まる昆虫や野鳥達の話など、色々な事を教えて貰いました。そして、活動をしていくうちに、この森が国有林などで構成されている事を知りました。国有林について漠然としか知らなかった時に、たまにたま友達から『国有林モニター募集』の事を聞き、すぐに応募したのがきっかけです。

とにかく、森林に関する事は何でもいいから、知りたいと思っていました。それから私の、森や

自然に関わりたい欲は増していき、とうとう『自然観察指導員』の資格を取得し、その後『木育インストラクター』の資格も取得しました。

今は森のボランティア活動を通じて経験した事や、国有林モニターで知った事がいっぱいあります。そして、木や落ち葉で楽しく作れる物がいっぱいあります。森や自然って凄いな！ということは今後は、子供達に伝えていけたら良いなと思います。

(福岡県在住)



森のボランティア活動を行う山川さん



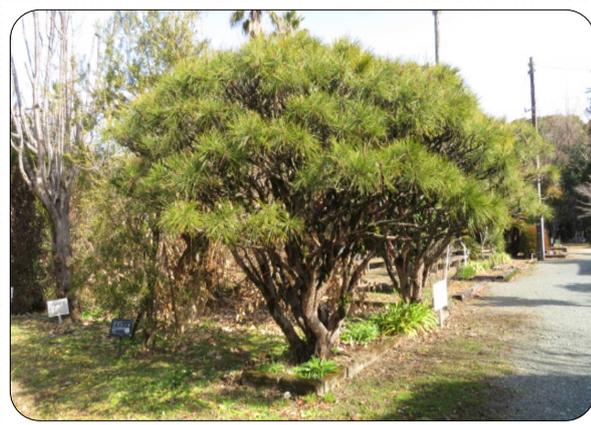
除伐した木から削り出したバターナイフ

都会の中の憩いの森
 監物台樹木園の
 多様な植物



167 タギョウシヨウ(マツ科)

樹木園の入口左側に2本並んで植えられています。高さは2m前後で目の高さで観察できます。「タギョウ」は「多行」の意味で、「根元及びその付近から多数に枝に分かれ、それが斜めに伸びて株」を作っており、名前の由来の意味がよくわかります。



立ちあがっている幹の樹肌はアカマツにそっくりであり、アカマツの園芸種であることが理解できます。別に主幹らしきものは存在せず、地上50cm内外から、傘を開いたように樹冠は、自然に丸みのある傘状に形成されるので、見た目に美しく、庭園の植え込などに利用されます。花



は枝の頂上に2〜3個の紫色の雌花を付け、その下部に楕円状の雄花を付ける。写真では、下部に雄花の花粉が写っています。
 あまり大きくならない種ですが、花が咲き、球果(松かさ)を付けますので珍重され、北海道から九州まで、日本全国の神社、仏閣及び公園などに見られます。
 タギョウシヨウ(多行松)は、園芸品種として古くからつぎ木で増殖したものが広く流通して普及しているであろう。と解説されています。

森林インストラクター
 安楽行雄



☆

みどり
 散歩路



鹿児島島の母の実家から時々食料品が送られてくる。大体はお歳暮やお中元の残り、あるいは畑で採れた野菜なのだが、この時期になるとそれらと一緒に赤紫色の果物が送られてくる。ムベだ。アケビの親戚のようなもので、分厚い皮を剥いて中身を食べる。柿に似た味で、平安時代には貴族へ献上されていたそうだ。
 ▼そのムベだが、あまり店には出回らない。味は良いが種が多くて食べづらい。それに山を歩けばタダで手に入る。店に並べたところで売れないだろう。
 ▼祖父がムベを食べたいといっているので、一緒に採りに行ったことがあった。全く採れなかった。祖父は猿に先を越されたのだろうと言ったが、私は母の実家の近くで猿を見たことがなく、正直信じられなかった。
 ▼猿が市街地に現れたと時々ニュースになるが、それは森の中に餌がないからだという。私が猿を見かけなかったのは、森に猿が暮らせるだけの餌があったということだろう。森林に携わる者として野生動物と共存できる森林環境を築いていきたいと思う。

【S】